

# Fleuret (フルーレ)



[剣の重さ]	500 g 以下]
[剣の全長]	110 cm 以下]
[ガードから剣先まで]	90 cm 以下]
[ガードの直径]	12 cm 以下]

剣先には500 gの強さのバネが入っていて、これ以上の力で突くとランプが点灯します。剣はしなやかで、昔、剣先に色のついたポイントをつけていたため、フランス人はこの種目を花(Fleure:フルール)にたとえたことから、「フルーレ」という名前が生まれました。

フルーレは、3種目の競技のうち1番基本的となるもので、突きだけを用います。

昔、まだ剣術の練習に真剣をつかっていたころ(マスクもなかった)、危険をさけるため約束事を決めました。それは、相手が攻撃をしてきたならば、その剣を払ってからでなければ反撃してはならないということです。この練習のための技術がスポーツ化したものです。

フルーレでは「攻撃をするためには、まず腕を伸ばす」ことから始まり「攻撃されれば、相手の剣を完全に払いのけ攻撃」をしなければなりません。この攻撃と反撃の剣と剣の渡り合いが、フルーレの最大の見どころといえるでしょう。

フランスでは、この剣と剣の攻防をPhrase d'arme: フラーズ・ダ・ルム(剣と剣の旋律)と表現するほどです。

フルーレには有効面と無効面があり、有効面は金属繊維で出来ているジャケットを着用した部分(頭・両足・両腕を除いた胴体部分すべて)です。その部分を突くと突いた選手側の「赤」または「緑」の色ランプが点灯し、突いた選手の得点が入ります。無効面を突くと、「白」のランプが点灯します。

両方のランプがほとんど同じに点灯した場合などは、試合規則によってどちらかの攻撃が有効であったか、あるいは「同時攻撃」であったかを、主審が判定します。